

音楽の世界で今何が起きている??

阿部 竜之介 『Pepeの視点』

May / 8 / 2020 # 86

Trombone & Euphonium奏者の阿部竜之介(Pepe)です。

このメールマガジンでは、僕から見た今の音楽の世界で起きていること、また演奏に関するヒントなどをお届けしていきます。

またメルマガ内でもいろいろな質問に答えていこうと思っていますので、どんどん質問してきてくださいね！

INDEX

[1] 旬な話題、気になる話題

『練習用ミュート』

[2] Pepeのひとりごと

『消耗品』

[3] おすすめ動画

『Dr.Brian Bowman - E. Boccalari / Fantasia di Concerto ブライアン・ボーマン
博士 E.ボッカラーリ / 幻想的協奏曲』

『Mahler's Symphony No. 7』

[4] 演奏のヒント！

『運指について (Euphonium) 』

[5] 編集後記

[1] 旬な話題、気になる話題

『練習用ミュート』

このような状況（緊急事態宣言）になってから、練習用ミュートにも注目が集まってきていますね。

僕は、2005年くらいから普段の自宅での練習では練習用ミュートを使っているので、他の人に比べると練習用ミュートのメリットとデメリット、それらを踏まえた上での上手な活用法、そして練習用

ミュートを付けている状態と、通常の（ミュートを外した）状態との違いなどはよくわかっていて、自分自身でうまくコントロールできていると思っています。

家で普通には楽器が吹けないので仕方がないのですが、練習用ミュートでの練習には、いろいろな危険（デメリット）もあります。

例えば、発音のときの息の流し方（力加減？）とか高音域と低音域の息の使い方など・・・。

これらは、練習用ミュートを付けているときと付けていないときとでは、違いがあります。

ミュートをつけると、もちろん音は変わりますよね。

その状態で、付けていない状態のときの「いい音」を目指そうとしてもうまくいきません。

いい状態の吹き方にミュートが付くとどのような音がするのか、それを知ることが一つのポイントになってくると思います。

別の言い方をすると、「全く同じように」とは吹かないということです。「ほぼ同じように」吹くという感じかなあ??

文章で伝えるのはかなり大変なのですが、ちゃんと「違い」を理解して練習をすると、練習用ミュートを使っただけの練習のデメリットはずいぶん減ってくると思います。

この先、どのくらいこのような状態が続くのかわかりませんが、お互い、常に前向きに考えて過ごしていきましょうね！ :)

[2] Pepeのひとりごと

『消耗品』

自宅で過ごす日々になってから、オイルやスライド・クリームの消費スピードが格段に上がっています。

毎日毎日のことなので、当たり前といえば当たり前なのですが、なんだか中学校のころを思い出します。 :D

特にEuphoniumのオイルは、ガッツリと練習しているときなどは、練習中に注し直さないといけなくなったりもします。

何年もこういう経験をしていなかったのも、なんだか懐かしく、不思議な気持ちになります。 :)

でも、こうして年齢を重ねてきても好きなことに熱中できる状態
いられることには感謝しています。 :)

先日、用事があり楽器屋さんに行ったときに、オイルと
スライド・クリームを買ってきました。

よし、これでこれからも心置きなく練習に熱中できるぞ！！ :D

[3] おすすめ動画

『Dr.Brian Bowman - E. Boccalari / Fantasia di Concerto ブライアン・ボーマン博士
E.ボッカラーリ / 幻想的協奏曲』

[https://www.youtube.com/watch?](https://www.youtube.com/watch?v=46RuFzyyKkw&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg&index=2&t=0s)

[v=46RuFzyyKkw&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg&index=2&t=0s](https://www.youtube.com/watch?v=46RuFzyyKkw&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg&index=2&t=0s)

今月の1つ目の動画は、Brian (Bowman氏) の演奏での
「Fantasia di Concerto(E.Boccalari)」です。

僕の前後の世代は、これを聴きながら育っていったと言っても
過言ではないくらい、彼の演奏するBoccalariは日本の
Euphonium界での一つの指標となっていると思います。

*「日本の」と書いたのは、そのレコーディングが他の国で
どのくらい広まっているのか知らないからです。アメリカでは
きっと知られているだろうけど、ヨーロッパはまたアメリカとは
全く違う環境だったりするんです。

2013年の日本ツアーのコンサートのものですが、映像とともに
聴くことができるのはまた嬉しいですね（学生たちにとっては、
替え指の参考にもなると思います）。

『Mahler's Symphony No. 7』

[https://www.youtube.com/watch?v=IAGZ7bchH-](https://www.youtube.com/watch?v=IAGZ7bchH-A&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg&index=9&t=0s)

[A&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg&index=9&t=0s](https://www.youtube.com/watch?v=IAGZ7bchH-A&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg&index=9&t=0s)

2つ目の動画は、New York Philharmonicのコンサートの動画から、
G.Mahler作曲の「交響曲第7番」です。

実は、僕が初めて買ったオーケストラのマーラーの交響曲のCDは、
5番でも1番でも2番でも3番でもなく、第7番でした。

理由？

それは、Euphoniumで演奏されることのあるソロがあるからです
(スコアも買いました)。

その頃はまだTromboneは吹いていなく、Euphoniumだけ

吹いていましたから（笑）。 ;)

この演奏では、首席TromboneのJoe (Alessi氏) が、ヤマハのバリトンでそのソロを演奏しています！！ :D
*ソロの後は、Tromboneを吹いています。 ;)

[4] 演奏のヒント！

『運指について (Euphonium) 』

*今回は、Trombone奏者にとっては関係のない内容になっています。ごめんなさい。

運指について、最近特に気になっていることがあります。それは、「右手の指の動かし方」です。

緊急事態宣言が出て、不要不急の外出の自粛をしないといけなくなり、これまでより動画をじっくりと観る時間が取れるようになりました。

Euphoniumを吹いている人なら、一度は習ったこと、聞いたことがあることだと思うのですが、

「右手の指は、常にピストンボタン（ピストンの押すところ）の上に置いておきましょう」

ということ。

最近、特に世界中でいろいろな演奏動画の投稿が増え、観たいものも増えてきていますね。

実は個人的には昔から気になっていたことなのですが、レッスン（雑誌などでのコラムを含む）で上記のことを言っている人でも、実際の自身の演奏でちゃんと実践できている人って、思った以上に少ないなあ、と（汗）。

いろいろなケースがあって、僕の考えの中でも、指をピストンボタンの上に置いておくべきときと、離れててもいいよ、というケースがあります。

・置いておくべきとき＝速い動きをするとき（指の動きのムダが出ないので、音がうまくつながる＝実際には速すぎてそこまで聴き取ることはムリだけど、ロスが出ているのは明らか）

・ 離れちゃってもいいとき = ゆっくりなテンポで簡単な動きのとき（もしくは伸ばしの音のとき）

このような感じです（あくまで僕個人の考えです）。

演奏動画を観ていてそれらがうまく実践できていない人を見ると、説得力がないのでは？とってしまいます（笑）。
速い動きのときほど、指の運動範囲を狭くしておくのは大切なことだと思うので。

ちなみに僕は、レッスンで自分もあまりできていないことを伝えるときには、

「実際にやるのは大変だよなぁ、俺もできてないときがあるからよく分かる！でも、なるべくこのような練習をして普段からできるようになる習慣を身につけていこうね」

というような伝え方をしています。

「こうやりましょう」と教えられて、それを言った人ができていないと「あれれ??」とってしまう性格なので（笑）。
（運指については、いい感じにできていると自負していますが、どうなんだろう? :)

気になる人は、自分の練習、演奏している様子を動画に撮って確認してみてくださいね！
この期間にぜひ直していきましょう～!! :D

編集後記

今回は、いろいろと文章での説明が大変で、長くなってしまいました。

まだ外出自粛期間は続きますが、だいぶこのような生活にも慣れてきましたね（同時に疲れてもきましたが。泣）。

5月に入りましたが、すっかり気温も高くなってきて、夏のような感覚の日も増えてきました。
数日前は、がっつり練習したのに楽器から水がほとんど出なくてビックリしましたよ（暑くなってきたので、

管内の温度と外の温度にあまり差がなく、
水がほとんど出なかった)。

涼しい格好をして練習をする日が増えてきましたが、
やっぱり毎日思うのは、早く他の人たちと一緒に演奏を
したい、早くミュートを外して広いところで楽器を吹きたい、
そして何より、早くこの事態が収まってほしい！！

次回のメールマガジンのときには、少しでも今の状況が
よくなっていることを願っています。

阿部 竜之介(Pepe) オフィシャルウェブサイト

<http://www.pepeabe.com>

ご意見、感想、質問などはメールでどうぞ！

info@pepeabe.com

©阿部竜之介 『Pepeの視点』

のバックナンバー、配信停止はこちら

<http://www.mag2.com/m/0001601194.html>